

第3章 産業廃棄物の処分実績報告書（様式第27号）の集計結果

第1節 産業廃棄物処理業者の処分量

1. 処分量の推移

平成16年度の産業廃棄物処理業者の処分量は3,034千トである。この内、中間処理量が2,651千ト、直接最終処分量が383千トとなっている。平成15年度と比較すると中間処理量が413千ト増加し、直接最終処分量が22千ト増加している。

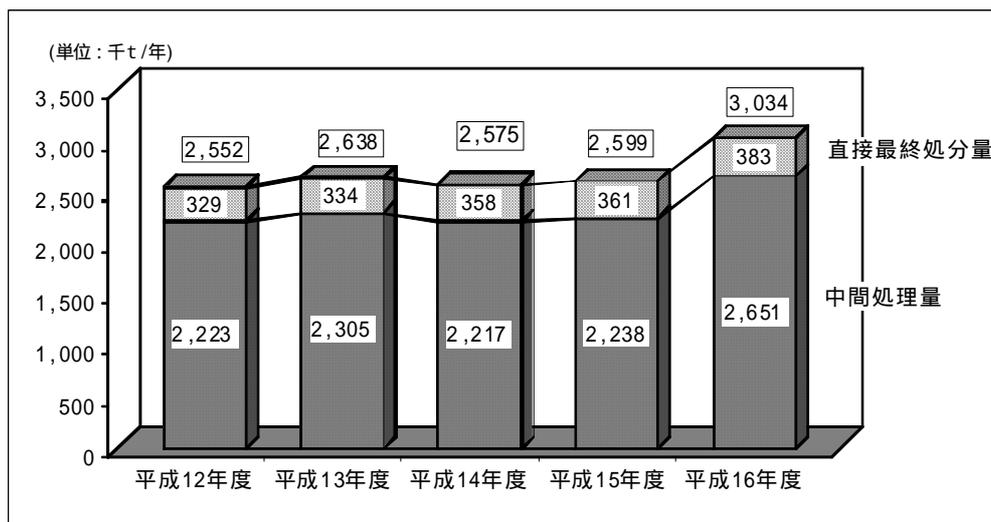


図 3-1-1 処分量の推移

2. 処分方法別の処分量

産業廃棄物処理業者の処分量を処分方法別にみると、「破碎・圧縮」が2,115千ト（80%）で最も多く、次いで、「焼却」が135千ト（5%）、以下、「堆肥化」が101千ト（4%）等となっている。

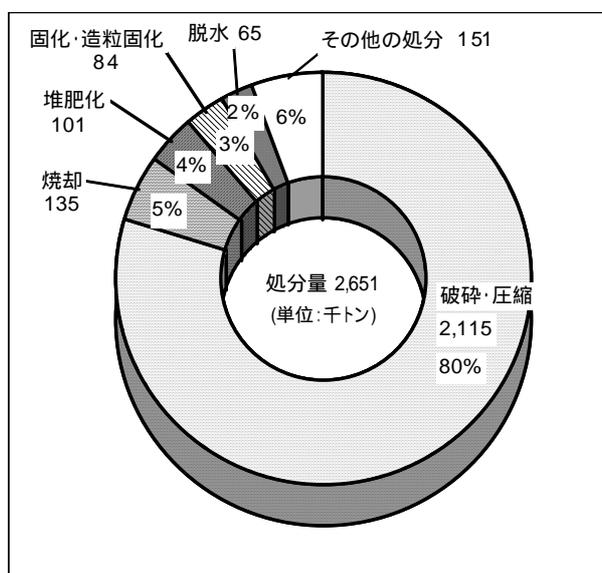


図 3-1-2 処分方法別の処分量

3. 廃棄物種類別の処分量

処分量を種類別にみると、中間処理量では、がれき類が 1,759 千トン（66%）で最も多く、次いで、木くずが 212 千トン（8%）、以下、汚泥が 207 千トン（8%）等となっている。直接最終処分量では、汚泥が 117 千トン（31%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類が 82 千トン（22%）、以下、ガラス・陶磁器くずが 56 千トン（15%）等となっている。

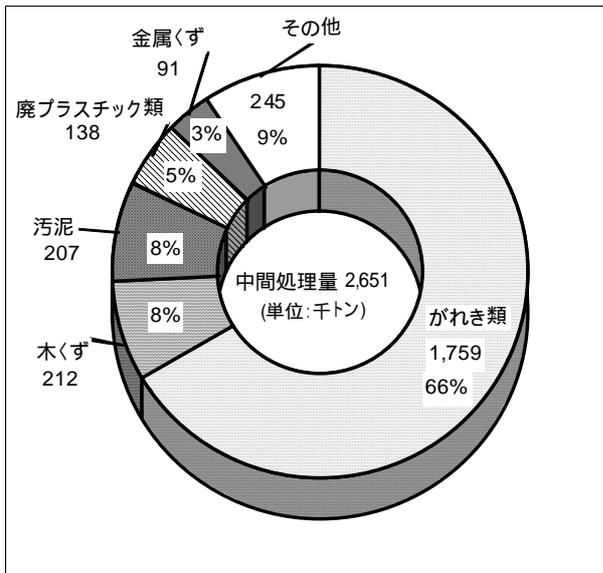


図 3-1-3 種類別の中間処理量

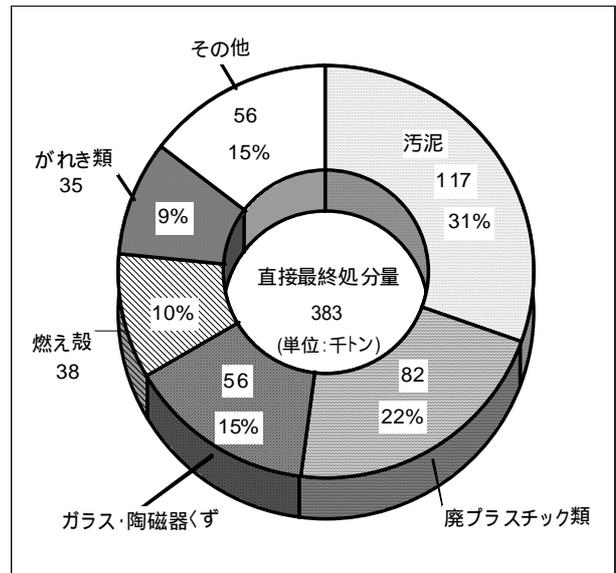


図 3-1-4 種類別の直接最終処分量

第 2 節 県外から県内への搬入量

1. 県内搬入量の推移

平成 16 年度の県内搬入量は、293 千トンである。この内、中間処理目的が 169 千トン、最終処分目的が 124 千トンとなっている。平成 15 年度と比較すると中間処理量が 13 千トン減少し、直接最終処分量が 40 千トン増加している。

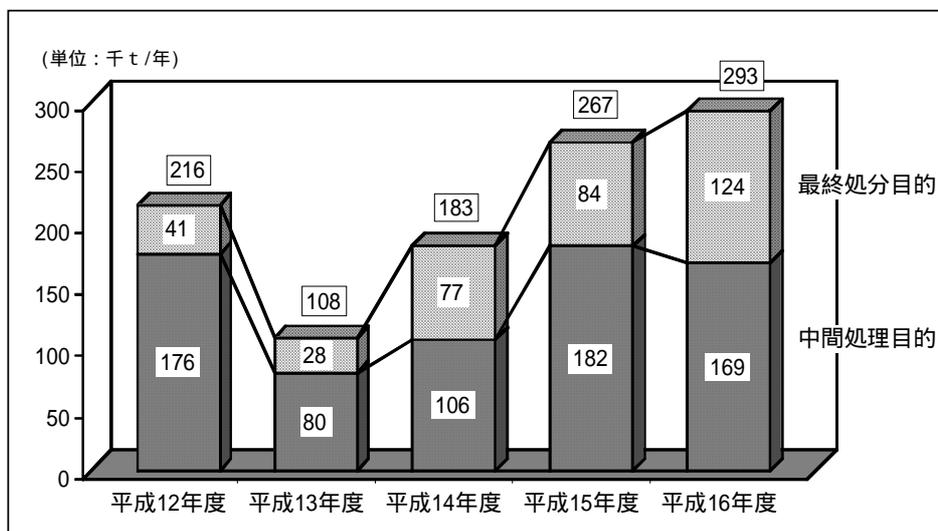


図 3-2-1 県内搬入量の推移

2. 種類別の県内搬入量

県内搬入量を種類別にみると、中間処理目的では、木くずが 38 千トン（22%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類が 32 千トン（19%）、以下、汚泥が 26 千トン（15%）等となっている。最終処分目的では、廃プラスチック類が 38 千トン（30%）で最も多く、次いで、汚泥が 28 千トン（22%）等となっている。

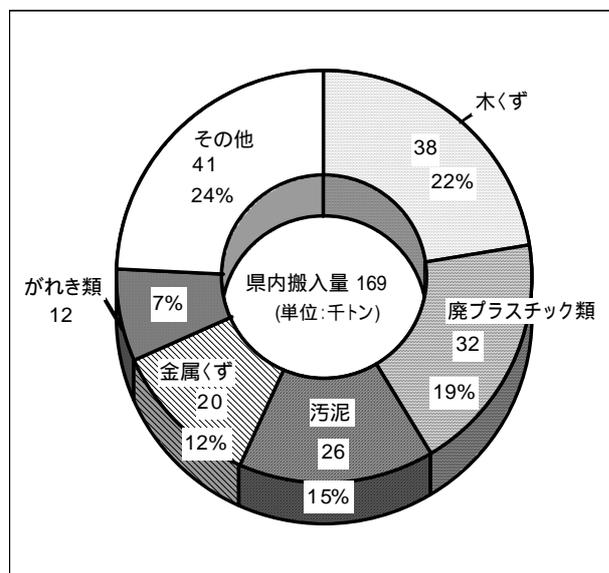


図3-2-2 種類別の県内搬入量（中間処理目的）

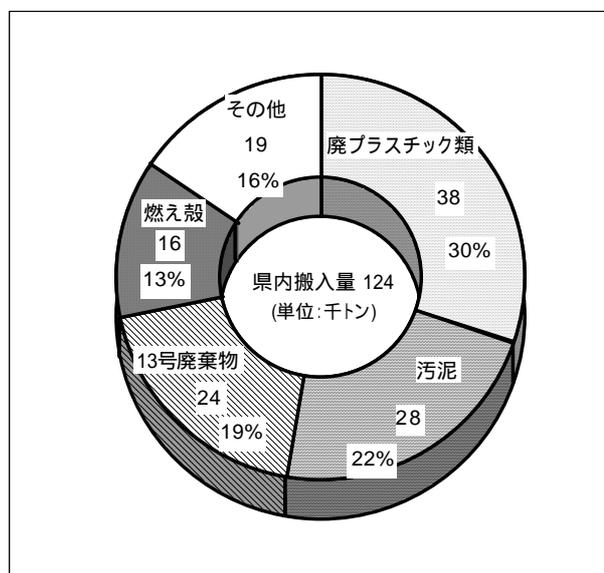


図3-2-3 種類別の県内搬入量（最終処分目的）

3. 搬出地域別の県内搬入量

中間処理目的の県内搬入量を地域別にみると、東北が 101 千トン（60%）で最も多く、次いで、関東が 66 千トン（39%）等となっている。最終処分目的の県内搬入量を地域別にみると関東が 101 千トン（81%）、次いで、中部が 15 千トン（12%）等となっている。

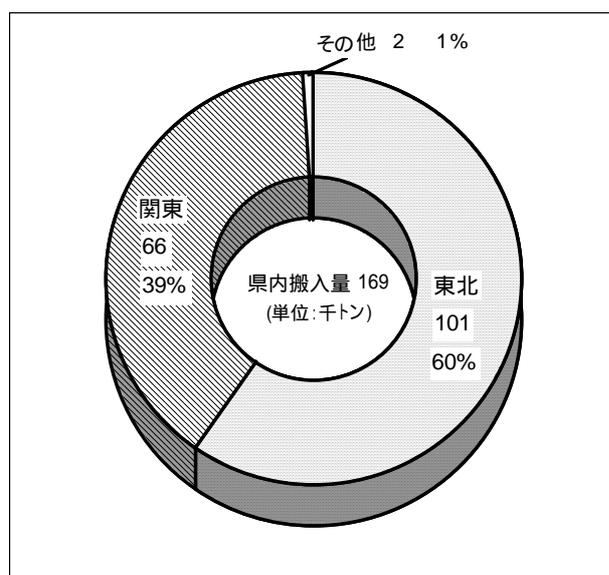


図3-2-4 地域別の県内搬入量（中間処理目的）

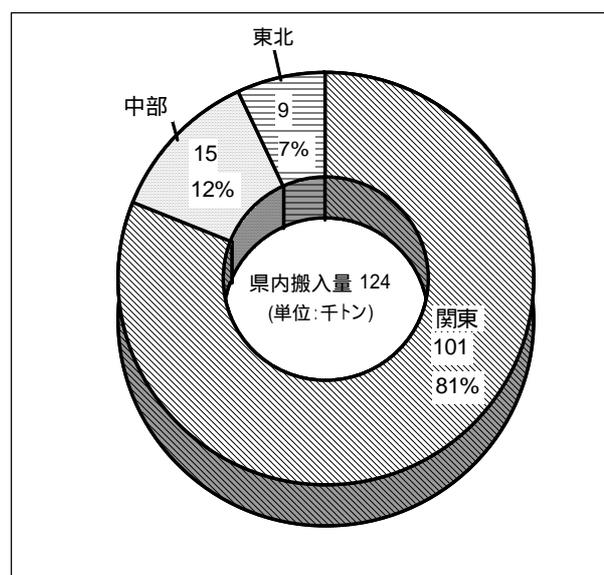


図3-2-5 地域別の県内搬入量（最終処分目的）